

会場のメロディーハウスは、宇都宮駅近くの老舗の喫茶店。日替わりランチやデザートに定評のある店で、時おり良質の素敵なライブが行われます。11月9日、かしぶち哲郎満を持しての故郷・宇都宮での公演は、このメロディーハウスの全面的なバックアップをうけ、大成功を収めました。観客動員数は店史上最高の70人を記録。寒さ厳しい星空の夜、熱く優しく心にしみる、いいライブでした。

第一部は野澤享司さんの出演。かしぶちさんとは高校時代からの友人であり、『はちみつぱい』にかしぶちさんが加入したときのエピソードで、必ず語られるミュージシャンです。現在は宇都宮市に在住、週末を中心に精力的なライブ活動を行っています。

その場の空気を変えてしまう魔法のようなインスト曲『迷走』で野澤パートが始まりました。『Whiskey River Blues』では、機材のトラブルでギターの音がマイクを通らなくなってしまったのですが、前の方にいた私には生の音が届いていたので、何が起こったのかわかりませんでした。異状に気づいた野澤さんが懸命にギターを弾きまくる様子を「今日は力が入ってるなあ」と感心しながら見ていたのですが、実は必死だったわけです。しかし、そんな状況にあっても、常連客がはやしたてるは、盛り上げるはで、実に楽しい演奏となりました。そして『大地の鼓動』と『それでもルーシーは空に』。ライブでは定番の曲ですが、迫真の演奏に、いつ聴いても圧倒されます。その後、あるお客さんの厚意で、野澤さんは不調だった方のギターを取り替えました。ライブの最中に人のギターを借りるといのは、大変な事態かと想像しますが、このあとの『over the rainbow』はきらめくような美しさでした。

自分は話すとき長くなるからと言い、できるだけ淡々と演奏を重ねたのは、続いて登場するかしぶちさんに聴衆の期待感を譲ったからでしょう。それでも冴えたギターとパワフルな歌で、硬派野澤享司のステージは初めての人々をも十分魅了したと、私は思います。

続いて、かしぶちさんの登場です。水をうったような静けさのうちに始まった『D/P』でした。『自由なメロディー』というのは、はちみつぱい時代のかくれた名曲、『Beep Beep Be all right』はムーンライダーズ初期のトンがったタイトな曲、とっていたのですが、どちらも高校時代に作られた曲だそうです。『屋根裏の二匹のねずみ』では「歌える人は客席で歌って」というかしぶちさんの言葉をうけ、かしぶちファンは客席のあちこちでなりきりデュエットに興じました。

ピアノについたかしぶちさんが最初に演奏したのは『砂丘』。憧れ続けた年月を思い懐かしく、目の前でかしぶちさんが歌ってくれる事実がただありがたく、心から感激したかしぶちさんのピアノ弾き語りでした。

『スカーレットの誓い』は、ムーンライダーズの代表曲とも言えるかしぶち作品ですが、応える聴衆がいなければライブでは成り立たない曲です。客席のファンを信頼してくれたのでしょうか、かしぶちさんが敢えてこの曲を選ばれたことを、私はとても嬉しく思いました。それまでしっかりと聴き入っていたかしぶちファンが、拳こそ振り上げないものの、いきなり「ヤーヤーヤー」と歌いだす様は、カシブチ旧友のみなさまの目には奇異に映ったかもしれせん。しかしこれは、「薔薇がなくちゃ生きていけない」を合言葉にやってきた私達が持つ、ムーンライダーズの血というものでしょう。

最後はまたギターに戻り、かしぶちワールドを象徴する『憂うつな肉体』『リラのホテル』で、静かにエレガントにしめくくられました。

そしていよいよ、かしぶち哲郎・野澤享司のジョイントと思ったところで、素敵な事件が起きました。お二人でやる曲は事前にはリハーサルもなさっていたでしょうし、かしぶちさんもすっかりその気になって曲紹介までしたというのに、突然野澤さんが、オレに一曲だけやらせてくれと予定外のことを言い出したのです。実はこれは、野澤享司からかしぶち哲郎への最高のプレゼント。ハッピーバースデーのサプライズ演出でした。ギターもドラムも手伝わなくていいから、黙ってそこで聴いててよ、と野澤さんが歌い出したのは、渾身のギターアレンジが施されたブルージー『Happy Birthday』でした。私は今までこんなにカッコいい『Happy Birthday』を聞いたことがありません。野澤さんの企てに気づかず、最初は困惑していたかしぶちさんでしたが、会場が Happy Birthday Dear 哲郎 の大コーラスに沸いたときは、本当に嬉しそうでした。かしぶちサポーターたちが用意していたのは、52本の真紅の薔薇の花束。結果として先の『スカーレットの誓い』は、この場面の粋な伏線ということになりました。

その後のお二人のジョイントは、本当に素晴らしかったです。かしぶちさんと野澤さんが高校時代に一緒に録音したという『今日は雨の日です』。そして、野澤さんの『君が気がかり』と『笛吹き童子のバラード』を、かしぶちさんがドラムでサポート。野澤さんのこなれたギターワークもさることながら、かしぶちさんの滑らかなバチ（ブラシ）さばき、斜に構えチラリチラリと野澤さんを見やるかしぶちさんには、ドラマーのカッコよさがあふれていました。最後は、かしぶちさんのピアノに野澤さんのギターが絡む幻の名曲『言葉、失くして』。ずっしりとしたこの曲が高校時代に完成されていたということには、本当に驚かされます。

アンコールはかしぶちピアノ、野澤ギターによる『釣り糸』。はちみつばい、ムーンライダーズファンにはおなじみの曲ですが、こんなに盛り上げられる曲とは思っていませんでした。もしも、遅れて会場に入り、最後のこの『釣り糸』しか聴けなかったという人がいたとしても、相当な満足度を得られたのではないのでしょうか。そのくらい素晴らしい『釣り糸』でした。最高潮でフィニッシュとなった最高のライブ。こういう機会は、一生に何度も体験できるものではないでしょう。

今回のライブで、楽器や機材の調達から、スタッフ人材の確保まで、あらゆる準備に奔走したのは、共演者でもある野澤享司さんでした。テレビ、ラジオ、新聞と地元メディアへの広報宣伝活動も、実に周到でした。野澤さんが交渉して「かしぶち哲郎、宇都宮で初ライブ」という記事が新聞紙上に掲載されたとき、チケットはほとんど売り切れに近い状態だったのですが、これはもはや集客を目的とする宣伝活動ではなく、「かしぶち哲郎」の名前に反応する人々に、気づかせようという野澤さんの誠意だったのだと私は思っています。ご自身も出演されるライブであったとはいえ「オレは今回は全くの添え物でいい、カシブチのためだけに成功させたい」と言っていた野澤さんの言葉をここに残しておきます。

宇都宮でのライブは、かしぶちさんにとって他の地方公演とは全く別のものだったにちがいありません。かしぶちさんの音楽が好きで、それを聴くためにファンが集まるいつものライブより、はるかに難しかったはずです。やらなければ、なんでもないのに、わざわざ苦い思いをしてまで出身地でライブをやる必要があるのか。そんな思いがきつとおありだったことでしょう。しかしこのライブは、やってよかったのです。見に来てよかった。会いに来てよかった。待っててよかった。好きでいてよかった。かしぶちさんをめぐるいろんな人たちのいろんな思いが交わった、宇都宮の夜。かしぶちさん 52 歳の誕生日でした。

【セットリスト】

第1部 野澤享司

1. 迷走
2. 悲しみはBluesで
3. 君想い唄おう
4. Whiskey River Blues
5. 大地の鼓動
6. Come Together ~ それでも Lucy は空に
7. 万川集海
8. 虹の彼方に
9. 時はいつも静かに

第二部 かしぶち哲郎

1. D/P
2. 自由なメロディー
3. Beep Beep Be...all right
4. 屋根裏の二匹のねずみ
5. 砂丘
6. 冬のバラ
7. スカーレットの誓い
8. 憂うつな肉体
9. リラのホテル

第三部 かしぶち哲郎 & 野澤享司

1. 今日は雨の日です
 2. 君が気がかり
 3. 笛吹童子のパラード
 4. 言葉、失くして
- アンコール
釣り糸

H P 掲載にあたり、オリジナル原稿から改行位置を変更させて頂きました。
2002.11.25 榎の会管理人 (KRAFT.WARTZ)